

NPO法人 介護サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



● NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ 2010 年度総会開催報告

開催日時：6月19日(土) 13時30分開会

会場：東京エレクトロンホール宮城 602 会議室 (仙台市青葉区)

出席者：本人出席 24 人、委任状による代理出席 3 人、書面議決書 12 人、合計 39 人の会員出席で開催されました。なお、傍聴者の出席は 11 人でした。

議事：第 1 号議案、第 2 号議案、第 3 号議案、第 4 号議案、第 5 号議案が提案され、各議案とも満場一致で承認採択されました。なお、今年度は役員改選年度にあたり、横濱敬子さんが就任し、遠藤裕子さんが退任されました。退任される遠藤さんには感謝の意をこめて花束が贈られました。

総会決議：満場の拍手で採択されました。



総会開催風景

● NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ 2010 年度総会第 1 回理事会開催

総会終了後、直ちに第 1 回理事会を開催し、総会で承認された理事より、理事長に樋口晟子さん、副理事長に齋藤昭子さんが互選されました。

● 2010 年度 NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ役員紹介 (敬称略・あいうえお順)

理事長	樋口 晟子	元東北福祉大学教授
副理事長	齋藤 昭子	みやぎ生協理事長
理事	嵐田 光宏	社会福祉法人仙台ビーナス会常務理事
理事	入間田 範子	宮城県生協連常務理事・NPO 法人介護ネットみやぎ事務局長
理事	齋藤 境子	社会福祉法人こーぷ福祉会元総施設長
理事	佐藤 優子	社会福祉法人こーぷ福祉会 こ〜ぷのお家桜ヶ丘施設長
理事	蘆武 昌春	民生委員・児童委員
理事	芳賀 紀子	NPO 法人介護ネットみやぎ事務局次長
理事	松浦 誠	宮城県民主医療機関連合会常任理事・事務局長
理事	横濱 敬子	NPO 法人 WAC まごころサービスみやぎ理事長
監事	水谷 英夫	弁護士
監事	渡邊 礼子	ボラネット杜の丘代表・地域福祉委員

介護ネットみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけでなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

介護ネットみやぎ参加団体 宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいこーぷみやぎ・松島医療生活協同組合・全国労働者共済生活協同組合連合会宮城県本部・みやぎ県南医療生活協同組合・JA宮城中央会・財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こーぷ福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人WACまごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・協同組合日専連仙台・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城県民連事業協同組合

●NPO 法人介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ 2009 年度事業報告・2010 年度事業計画

1. 2009 年度主な事業報告

- ①介護サービスの質の向上のための研修会等の取組み…開催数 3 回、延べ 63 人の参加
- ②会員団体のより一層の連携の推進…実務担当者会議を 5 回開催
- ③各事業所の運営やマニュアル整備など会員共通のマニュアルづくり
- ④苦情解決のための第三者委員 5 人の共同委嘱を継続、相談件数 4 件
- ⑤介護サービス「情報の公表」事業について
 - ・2009 年度は、調査員 44 人で 690 事業所を訪問調査 ・事業推進委員の変更：伊藤博義委員の退任、豊田正利さん就任 ・合同「情報の公表」調査事業推進委員会の開催（参加団体…各指定情報調査機関、宮城県、公表センターの 21 人が出席） ・「情報の公表」調査実務向上検討委員会を 6 回開催
 - ・介護サービス「情報の公表」苦情解決の第三者委員の再委嘱と委員研修 ・情報交流会を開催（苦情受付件数 1 件） ・調査員研修会の開催（7 回開催し延べ 190 人が出席）
- ⑥福祉サービスの第三者評価の調査・研究の取組み…保育園でのモデル事業を実施
- ⑦成年後見研究チームの調査研究事業…第 3 回成年後見セミナーに参加
- ⑧介護保険制度をより良いものにするための活動
 - ・介護保険制度政策立案チーム：3 回の会議開催 ・「私達がめざす介護保険とするための宮城県緊急会議まとめの会」の開催 ・2009 年度総会記念講演「安心して働き、利用し続けられる介護保険にするために」開催
- ⑨学習会・交流・研修会等
 - ・「三好春樹連続講座」～よりよき介護をめざして～を開催（2 回連続講座） ・ケアマネジャー交流会の開催
- ⑩要介護認定変更に関するケアマネアンケート調査の実施（13 団体 130 人 96 人回答）
- ⑪要望書、意見書の提出と懇談会等…厚生労働大臣（舩添、長妻大臣宛）への要望書提出
- ⑫情報の収集発信の取組み…「情報紙」は年 6 回（19 号～24 号）発行・「ホームページ」の更新、速報等
- ⑬理事会の開催…定例 5 回開催、持回り理事会 2 回開催
- ⑭監事会の開催…2009 年度上期で開催

2. 2009 年度決算報告

「一般会計」と「情報の公表」調査事業の 2009 年度収支決算は、収入合計が 21,781 千円（前年比 115.9%）、支出合計が 18,504 千円（前年比 120.0%）、次期繰越金は 3,277 千円（前年比 96.9%）でした。

3. 2010 年度事業計画

- ①会員事業所の介護サービスの質の向上のための事業…キャリアパス、リスク管理、倫理規程策定等
- ②介護ネットみやぎ会員団体のより一層の連携の推進…連携強化と職員交流を推進する交流会を開催
- ③共通のマニュアルなどの作成
- ④介護サービスに関する苦情解決の第三者委員の共同委嘱の継続
- ⑤第三者委員苦情相談窓口の設置を継続
- ⑥介護サービス「情報の公表」の調査事業の推進
- ⑦地域密着型サービス外部評価事業の取組み推進
- ⑧福祉サービスの第三者評価の調査・研究の取組み推進
- ⑨成年後見制度・まもり一歩を活かす情報の提供と「市民後見人」の研究
- ⑩介護保険制度をよりよくするための活動推進
- ⑪情報の収集・発信
- ⑫理事会、実務担当者会議、調査事業推進委員会等の開催と事務局体制の整備

● 介護ネットみやぎ設立 10 周年記念講演開催

6月19日(土)、介護ネットみやぎ総会と介護ネットみやぎ設立10周年を記念した講演会を、東北大学名誉教授日野秀逸さんをお招きし、東京エレクトロン宮城602会議室で開催しました。

この記念講演会には、介護ネットみやぎ関係方々や一般の方も含め60人の方々が参加されました。テーマは新政権における高齢者医療と介護保険のゆくえ」と題し、講演をいただきました。

講演要旨

国家財政の危機問題と医療・介護をはじめとする社会保障問題を、政権交代をした政府などが消費増税論展開している。多くの国民の間には、消費税増税止むなし。いわば負け戦の気運が蔓延っている。※「国の赤字が900兆円あり、このままではどうしようもない」「孫子の代まで借金を残すわけにいかなから、消費税が上がってもやむをえない」など増税容認の気運が増してきている。この様な社会情勢から特徴的な問題と今後の取組みについて話されました。

この間の問題点

①社会的孤立と共同消費手段の弱体化の同時進行→核家族化の進行と地域生活の困難性の拡大。②新政権の公約違反→後期高齢者医療制度。消費税増税等々。③新政権の社会保険への無理解→社会保険と私的保険の理解不足…「社会保険とは憲法25条を具体化する仕組み」なのに、根本的な理解不足である。④政策的分岐は財源論→「呪縛＝赤字国債亡国論」…借金を増やしたのは小泉構造改革路線。社会保障支出は財政悪化の原因ではない。

⑤健全な国家財政→外国投資家の投資分析で明らかである。国家財政危機論は、財務省が小細工して展開したもの。※国債発行と投資の内訳では、国・民間企業及び個人海外資産は増えている。(現残高：+266兆2230億円〔＝海外資産－海外投資〕、銀行は過去最大の金余り(2010年6月：日銀発)⑥そもそも税金とは？→それは民主的な福祉税制が原則(＝累進課税と最低生活費非課税と公的責任)であり、全ての税は、平和と福祉のためにある。→国税の不公平是正で15兆円、地方税の不公平是正で6兆円、故に消費税を増やす理由や消費税に依存する理由はない。

今後の取組み

◇平和的経済と社会保障をめざし、「平和・国際連帯と内需拡大・庶民生活向上」の2本柱とする経済発展の実現が求められる。①憲法9条(＝戦争の放棄、戦力の不保持、交戦権の否認)を守り、平和と人権の砦としての医療の実現。②医療・社会保障制度を改善するためにも憲法9条と憲法25条(国民の生存権、国の保障義務)の改悪阻止に向けた運動の展開。③憲法13条(＝個人の尊重)の幸福権、憲法9条の平和的幸福権と憲法25条の健康的な幸福権。地域でこれらを具体化するのが地方自治の本旨。④あらためて政策的にも運動的にも高い水準と広い基盤で「国民の声」を組織し、「草の根からの運動」を展開することが重要である。



講師 日野秀逸さん



懇親茶話会の様子

● 介護ネットみやぎ設立 10 周年記念懇親茶話会開催

介護ネットみやぎ設立10周年記念行事として、総会と記念講演会を終えた後、懇親茶話会を開催しました。

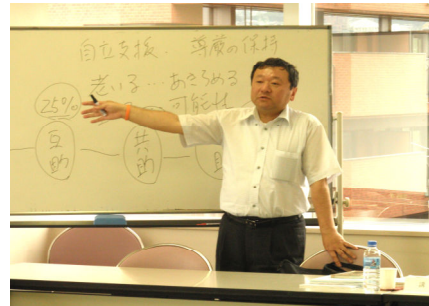
● 介護サービス情報の公表

1. 2009 年度第 3 回情報の公表調査事業推進委員会報告

5月20日(木)より13時30分よりフォレスト仙台3F介護ネットみやぎ事務所にて5人の出席で開催しました。入間田委員長より「情報の公表」調査事業、会計関係、年間計画などの報告がありました。その後、介護保険制度の現実に沿わない点や、調査機関として情報の公表の調査を通して見えてきた改善点を意見として挙げていくことも役目なのでは、などと意見が交わされました。

2. 介護ネットみやぎ 2009 年度第 6 回「情報の公表」調査員研修報告

6月8日(火)の10時30分よりフォレスト仙台5F第501号室において、調査員37人の出席で今年度最後の研修を開催しました。2009年度事業所アンケートから見えてきた反省点、新年度に向けての説明がありました。午後は、講師に近藤誠さん(愛媛県西条市高齢介護課副課長)をお迎えし学習会を持ちました。近藤さんには最後に『「情報の公表」にたずさわりの良い情報を提供することで、地域のみなさんに喜んでもらえますように!』と熱いエールをいただき、調査員一同、気持ちを新たにしました。



講師 近藤誠さん

学習会要旨 ～「グループホームにおけるターミナルケア(終末期の介護)について」～

介護保険の理念は「自立支援」と「尊厳の保持」です。自立支援とは、やりたい気持ちを失わずその人のやれることを支援することであり、生活支援ではありません。老いる＝あきらめる、生きる＝可能性があることです。まわりの人や環境との関わりで失敗や不安は不快感を、成功や安心は快感を味わいます。認知症の方は、快・不快という感情だけが残ります。認知機能の低下は一人ひとりが違うことに留意しながら、心地良さを守ってあげられる「快護」とするために、係わる側の都合ではなく本人中心に係わる事が大切です。制度発足当初のグループホームは、軽・中度の認知症の方のための施設で通過型だったため看取りまでは考えられていませんでした。そのスタンスは今も変わらず、終末期のケアをやるかやれないかは個々の事業所の判断となりました。終末期支援の要望が高まる一方で、後見人の身上監護や身元引受人としての問題、医療行為の際の問題などへの対応策も必要となってきています。「看取り」とは?その人の自立支援に向けて最後までかかわることです。看取りにおける関わり方は死をみるだけではなく、“緩和ケア(身体も心も)のための連携”です。そして、亡くなった後の家族に対するケアも重要です。人が死ぬことには必ず後悔が残ります。それを小さくしてくれるのは生前の関わり方とグリーフケア(地域やスタッフの声がけ)です。「どこにでもあたり前に優しさのある社会」であることを望みます。

3. 介護サービス情報の公表調査員養成研修参加報告

6月21日(月)、23日(水)、29日(火)、7月5日(月)、11日(日)の5日間、10時から17時まで宮城県庁と公表センターにおいて調査員15人(新調査員6人含む)が受講しました。介護ネットみやぎは2010年度、調査員47人で、介護サービス事業所740件(予定)を訪問調査します。

● 地域密着型サービス外部評価

1. 2010 年度地域密着型サービス外部評価調査員養成研修…4月13日(火)、15日(木)、5月に訪問調査同行実習、6月11日(金)に計4日間のカリキュラムで開催され、介護ネットみやぎから16人が受講し修了証が交付されました。

2. 外部評価機関選定…7月1日(木)に宮城県地域密着型サービス外部評価実施要領第3項第1号ロの規定により、選定されました。